



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 61

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。〔文書館 ☎63・1010〕

**懐かしの1枚**  
石造六地藏像  
昭和45(1970)年 山本町市指定有形民俗文化財

県道込野観音寺線の六地藏峠(三豊市と徳島県三好市の県境)にある。かつては現在地より東方の山頂、猿が額と呼ばれるところに存在したという。昭和45(1970)年に現在地に移された。写真はこの時に撮影されたもの。右側にあるのは、同時に移設された不動明王。かつては多くの人々や借耕牛が、この峠を越えて讃岐と阿波を往来していた。

「思い出の1ページ」

「この写真の左から2番目は私です。今から約50年前、県道工事で石造六地藏像を移設したときに、工事関係者と一緒に写したものです」と話すのは、当時、山本町役場建設課で働いていた須藤昌幸さん(92)。

山本町河内の六地藏峠にある石造六地藏像は、江戸時代に行われ、高さ89cm×幅43cmの一枚の石板に6体の地藏が刻まれた珍しいものです。

「三豊市と徳島県三好市をつなぐ県道込野観音寺線は、当初、道幅が狭く通行しにくかったので、山を削り道幅を広げる工事を行うことになりました。工事の前に県知事が視察に訪れたとき、少し離れた場所にあった石像を見て、『この珍しい石像が道から見えないのはもったいない。工事に合わせて移動させるように』と指示したそうです。その後、工事を担当した建設会社が石像を写真のように移動させました。

とても歴史のある石像だったので、移設後には教育委員会の文化財担当と一緒に調査をして、史跡を示す白い柱を建てたんですよ」と懐かしそうに振り返ります。

「昔は、この県道が町内で唯一の自動車道でした。徳島県から荷物を積んだ人々が、六地藏

**編集 後記**

報紙の作成工程の中で、市長自身が紙面を確認する「市長校」というものがあります。広報紙を読みながら横山市長は、常々「既成概念にとらわれず、常に新しいことに挑戦しなさい」と話されていました。もうご本人にご覧いただくことは出来ませんが、この言葉を胸に刻み、三豊の広報を進化させていきたいと思っております。横山市長、本当にありがとうございます。

峠を越えてたくさん来ていましたよ。山本町内で商売をしたあと、食料品や日用品などを売っていた「和田屋」や「富士屋」で買い物をしていたのをよく見かけましたね」

当時の物流の要であった県道込野観音寺線でしたが、国道32号線が出来ると、六地藏峠を越える人はほとんどいなくなりました。ですが、近くの展望台からは三豊の山々や瀬戸内海などが見渡せる絶景が広がっています。機会があればぜひご覧ください。

※道幅が狭くなっているところがありますので、車の運転には十分お気をつけてください。